

2017年6月9日

## 課題発見ゼミへの期待 熊坂・佐藤・山口クラス

1)

両親が教師をしていることもあって、教員免許は特別支援の免許を取りたかったが、徳島大学は特別支援がないので、こういった機会に勉強したいと思った。また、小さい頃から手話に興味があるので、手話を学んだりできるのはとてもいいと思って選んだ。教員免許で取れない分、ゼミで学んでおきたいと思う。

コメント [y1]: 残念ながら、授業では直接、手話講座を行う予定はありません（ですよ、佐藤先生）。しかし、障害学の基礎を学んでおくことは、必ず役に立ちます。

2)

高校生の頃の英語の先生は視覚障害のある方で、盲目だった。学校の中では勿論、帰り道も同じ方向なのでよく見かけていたが、とにかく生活しづらいように見えた。

街には点字ブロックや音の出る信号機など、一通りの配慮が見られた。しかし、実際のところそれらを用意して満足してしまっているだけだった。点字ブロックはところどころ破損しているし、信号機は押しボタン式で、ボタンの位置などまったく配慮されていない。目が見えていても子供には届かないような場所にあたりもありました。歩道は自転車用のスペースが設けられていたが、特に仕切りがあるわけでもなく、ただ塗り分けられていただけだった。帰り道に声を掛けたことがあったが、「すぐそこなので大丈夫ですよ」と答えつつも、かなり苦勞して歩いてきたようだった。

私は将来街づくりに関わりたいと考えている。誰にでも暮らしやすい町を作ることは、こうした苦勞を見~~た~~てしまったからには義務だと考えている。そのために、もっと自分とは違う立場の人のことを知りたい。

コメント [y2]: 街をよくすることと、医療的な対応とは、どちらかだけというわけではなく、車の両輪のようなものです。とはいえ、一方的な「善意」は時に「暴力」になりますから、当事者の声も聴きつつ、進めなくてはなりません。

3)

私はBクラス(山口先生、熊坂先生、佐藤先生合同クラス)を第一志望にしようと考えている。なぜかと言うと、『当たり前』『よいこと』と思われていることに潜む『暴力性・加害性』を自覚する」という言葉に惹かれたからだ。

今の社会ではグローバル化が進行し、いろいろなバックグラウンドを持った多様な価値観の人と手軽に交流できる。交流したいと積極的に行動しなくても、そのような人と関わらなくてはならないタイミングはすべての人に絶対に訪れるだろう。その中で相手と良好な人間関係を築き、文化の違いで衝突しても、きちんと話し合い、お互いに最大限の妥協や理解をして受け入れて行くことはとても大切なことである。それをうまく成し遂

げるには、様々な価値観を受け入れる経験が必要だと考える。

また、私自身、相手が言った励ましの言葉や行動に反対に傷つけられた経験が何度もある。そしてきっと、私の言動に傷ついてしまった人もいることは想像に難くない。すべての人の感情を完全に読み、相手が傷つかない言動だけを選ぶことはできない。それでも、少しでもいろいろな立場に立って、その視点から社会を見る経験を積むことで、より他の価値観に寄り添うことができるのではないかと、喧嘩や暴力ではなく、きちんと話し合っ

て分かり合えるのではないかと。そんな風に考える私にとって B クラスは、学びたいことが詰まったクラスである。

4)

私は、興味があることが複数あり、まだ専門科目で何を学ぶかを決めていないので、障害という同じテーマを心理学、倫理学の 2 つの視点から学ぶことができる点が良いと思い、このクラスを 1 番選択したいと思った。小学校、中学校、高校でも障害について学ぶ機会があったが、自分で深く考える機会はなかったため、多面的な視点を持ってテーマに向き合いたいと思った。

5)

私は熊坂・佐藤(裕)・山口クラスの「障害について考える」をテーマにするクラスを選択したい。

このクラスのテーマである「障害」というものは、「誰しものが自分たちの問題として学ばなければならないもの」である。もともと私自身「障害」やそのサポートについて興味があったが、その知識は多面的なものではなく知識も豊富ではないということを実感している。そしてそれと同時に、周りの学生たちにも「障害」についての正しい理解が存在するのかわりに疑問だ。

文部科学省の調査によると「通常の学級における発達障害の可能性のある児童生徒の在籍率は 6.5%」である(文部科学省「特別支援教育について 平成 25 年」, <https://www.nise.go.jp/cms/resources/content/10144/20150312-142939.pdf>, 平成 6 月 11 日アクセス)。この調査の結果に基づいて計算をすれば、30 人学級であれば 1~2 人程度クラスに発達障害を抱えた子どもがいることになる。その時に教師やクラスの子どもたち、そして保護者などの障害を持った児童への対応力が求められる。もしも、教員が学習方法や学習速度をその発達障害を持つ児童に配慮して行っていた場合、他の児童の保護者から「そのせいで自分の子ども学習が遅れてしまう」といった意見がでてきてしまう、といったことも容易に想像できる。だが、そうした自分の子どもだけのことを考え、障害を持つ児童について十分に配慮することのできない親を見て育つと、その子どもも「障害を持っていることが悪い」というような偏った意見を持ち、障害というものに対して理解しようという姿勢がなくなってしまう危険性がある。

**コメント [y3]:** 現代の世界では、話し合いよりは暴力や権力の力づくで自分の考えを押し通そうとする人たちが力を持っている。そうした世界は、私たち一般人には、とても暮らしにくい社会になってしまいます。

**コメント [y4]:** 知識が増えていけば、積極的にもっと知ろうという主体性も芽生えてきます。

**コメント [y5]:** ガイダンスでは「医療モデル」と「社会モデル」の二つについて触れましたが、そもそも「障害」という概念が社会的に構築されているという社会学の見方もあります。「発達障害」は、そうした議論での典型的な例です。要は、クラスに一人か二人いる「困ったちゃん」(ちょっと言葉は悪いですが)が、その子の個性や性格の問題ではなく、「病気」というカテゴリーに放り込まれたという見方です。リタリンという薬がアメリカで開発され、「困ったちゃん」に飲ませるとおとなしくなるということが発見されたのですが、薬を処方するためには「病気でなくては困る」。そこで、「発達障害」という病気が作り出された、ということです。

しかし、「障害」に対して正しく理解のできていないままであることは私たちの将来を考えたときに必ず不利なことである。私たちがこれから生きていく上において私たちは、「障害者」と呼ばれる人たちと、絶対と言っても過言ではないくらいの確立で出会う。それは家族かもしれないし、友人かもしれない、そして職場の人かもしれない。一生「障害者」と関わらないことなどあり得ないことであり、「障害を持っているということがなにか特別なこと」である意識もなくなっている。これから「障害」について理解していることが「当たり前」にするために、私は「障害」というものへ興味を持って、自主的な学びの場である課題発見ゼミナールのこのクラスで学びたい。

これから先にこのクラスでは、グループごとの共同研究やディスカッション、発表会などの機会が設けられており、この授業に取り組んだ者同士意見の交換ができる。それらの活動から他の人の意見を知れることや、意見交換ができることは私自身の刺激になる。自分の今までの考えだけではなく、「こういう意見もあるのか」という新しい発見から、自分の中にある考えをさらにもう一度深めていくこともできる。授業への取り組み方と同じように「障害」についても「共同的な関わり」というものを意識したい。私たちは「障害」への理解を継承していく立場であり、私たちがみんなその自覚と責任があるのだということを知るだけでも意味のある、重要なことである。

6)

私は、熊坂・佐藤・山口クラスを選択したい。その理由は、私は公共政策コースに行きたいか心身健康コースに行きたいかで迷っているからだ。障害ということについて心理的・倫理的に、あるいは社会的に考えるという多面的なとらえ方をすることで、本当に自分がやらなくてはならないと思えるものが見えてくるのではないかと期待している。また、「地獄への道は善意で舗装されている」ということわざは初めて聞いたが、裁判によって障害者を殺した人への罪が軽くなったという例を聞いて、よく理解することができた。障害について本を読んだり、話し合いをすることを通じて、善意で舗装された地獄への道を見極め、そこに踏み入らないようにする能力を身に着けたい。

7)

私が選択したいゼミは、Bクラスのテーマ「障害について考える」のゼミである。私がこのゼミを選択したい理由は2つある。

まず1つ目は、大学における学び方の基礎をより身に付けたいからである。私は大学に入り、総合科学入門講座やその他様々な分野の講義を受けたり、レポートや授業コメントをいくつか書いてきたりしてきたが、まだ大学での学び方に慣れていないように感じる。具体的には、情報に惑わされず自分の意見を持つこと、自分の意見を分かりやすく相手に伝えること、自分の主張についての反対意見を見つけることなどがまだ定着していない。さらに、これからはプレゼンテーションやディスカッションなど人前で発表する機会も増

コメント [y6]: 極端な例を言えば、ナチスは「ドイツ国家の改善」という善意に基づいて、「劣等人種」「同性愛者」「精神障害者」を虐殺したのです。

コメント [y7]: しっかりまとまっています。感心しました。

えていくため、分かりやすい発表資料を作ることや自分の言葉で相手に伝えることが必要となってくる。これらの力を短期間では身に付けることは難しいため、私はこのゼミを通して、今の自分に足りていない大学で学ぶために必要な力を身に付けられるようにしたい。

続いて2つ目は、「障害」についての知識をもっと深めたいからである。私はもともと障害について関心があり、「身体・精神・発達障害へのサポート -私たちにできることを考える-」という講義をとり、様々な障害について学んでいる。この講義では、主に精神障害と発達障害について学び、それらの障害を持った人たちに対して自分は何ができるのかということについて考えている。私は将来、地元で地方公務員として働きたいと考えており、地方公務員には障害のある人たちを含めた全ての人々が暮らしやすいまちづくりをすることが求められる。さらに、現在では障害者雇用対策として、一般の民間企業では1.8%、国・地方では2.1%という障害者法定雇用率があるため、どのような職種に就いても障害のある人たちと関わるようになる。これらのことを踏まえ、私はこのゼミを通して、障害を心理学的観点や倫理的観点など様々な観点から学び、個人としてできることだけでなく、医療や社会全体などあらゆる立場からサポートできるような知識を身に付けていきたい。

8)

私は山口先生、熊坂先生、佐藤先生の障害者についての講義を受けようと考えている。なぜなら私は将来障害者のサポートに関わる仕事に就きたいからだ。今までたくさんの障害者と関わってきたが、倫理的観点、心理学的観点など学術的な視点から詳しく学ぶことはなかった。今回の機会を有効活用し、学習したい。また、この講義は論理的思考力や発信力の向上にもつながる。将来に向けてのスキルアップに繋げたい。

コメント [y8]: 「講義」でなく、あなた自身が主体的に調べ、議論し、発表する「ゼミナール」です。

9)

私がこのクラスを希望する理由として、このクラスでは、テーマとしてシラバスに「多方面から調査研究し、妥当な見解を作り上げる技能を身につける。」と書いており、自分も本学部で物事を多方面から見て考える力を身につけたいと思っていたので希望しようと考えた。また、私は将来教育関係の仕事に就きたいと考えており、そこで大切となる他者へわかりやすく伝える力を身につけることができると思ったからである。

コメント [y9]: 考える力、伝える力、分かり合う力は、どのような場面でも必要ですね。

10)

私は今回の課題発見ゼミでは熊坂先生、佐藤先生、山口先生によるクラスを選択したいと考えています。このクラスは他のクラスとは違い、三人の先生が合同で行うものです。そのため「障害」という一つのテーマに対する様々な考えを知ることが出来ます。

また、このクラスの特徴として、夏季の長期休暇に参考文献を読むことが求められることや、グループでの研究・発表に充てられた時間が長いことが挙げられます。これらを行わなければならない授業は率直に言って楽ではないでしょう。しかし山口先生が「技術の

習得には反復練習が必要です。苦勞して得た技術だけが、他の人にはマネのしがたい「自分だけの財産」になります。」とシラバスに記されていたように、苦勞をすることで得られるものがあります。この授業を通して文章表現力や共同してグループで調査・研究する力を得ると同時に、**苦勞や嫌なことから逃げない強さ**を養いたいです。

**コメント [y10]:** 頑張ってください。全力で応援します。

## 複数を選択

### + 佐藤（健）

私は、佐藤健二先生の C クラスを第一希望に選択する。

一般教養の授業である佐藤先生の「心理学概説」という授業を履修しており、その授業で学ぶ内容はどれも興味が湧くものばかりである。そのため、臨床心理学・健康心理学・社会心理学に関する社会的課題について先生の講義を聞き、自らその解決策について考え、議論するという C クラスを希望した。

また、私は心身健康コースに進もうと考えているので、それに関連した内容であることも選択した理由のひとつである。この点から考えると、山口先生、熊坂先生、佐藤先生の「障害について考える」というテーマの B クラスも関連した内容であることから、第二希望に選択した。

### + 上原

私は将来厚生労働省に勤務して、**福祉政策の施策**などに携わりたいと考えている。福祉政策の対象にはもちろん障害を持った方も含まれる。そのため B の「障害を考える」というテーマに取り組むことは将来のために必要なことである。国はどのような形で障害を持った方たちを支援すればよいのか、具体的にはどのような政策を行うのがよいのかを研究したいと考えている。

そして国家公務員として働くうえで法律や基本的人権についての理解は必要不可欠である。また、最近は医療の現場で自己決定権が重視されており、医療制度にかかわる業務も行う厚生労働省で勤務するには自己決定権に対する知識も必要である。そのため C も候補として考えている。そして担当教員である上原先生は行政法を専門されているそうなので、C を受講した場合は行政組織の在り方などについても話をうかがうつもりだ。

**コメント [y11]:** 国の政策の影響は、とても大きいです。多面的な視点からの十分な考察を踏まえて計画し、実施するようにしてください。

## + 趙

今回の総合科学部入門講座での話を聞いて、私は B クラスの山口・熊坂・佐藤クラスと G クラスの趙クラスを選択したい。その理由としては、自分はジャーナリストを目指している。そのためには情報の信憑性を確かめ、体系的な情報の真偽を見極める必要がある。その上、その信頼できる情報をどのように人々へ発信するべきであるかというプレゼンテーション力が求められる。その力を養うために、B クラスで「障害」という題材のもと、文章表現を身につける。そして、共同して調査研究する力を身につける。さらに、プレゼンテーションの技能を身につける。それらを身につけて、自分の考えや主張を他人に理解させなければならない。G クラスではプレゼンテーションの技能に加えて、社会科学を学習するのに必要な物事の考え方を習得することを目指している。到達目標として、物事を感情論ではなく、社会科学的な思考方法で思考することである。したがって、これらも自分自身の将来で必要となる、情報を集めて社会科学的な視点から問題提起をして発信していく力を身につけられると言える。それゆえに、自分は後期の課題発見ゼミナールでは B クラスか G クラスを選択するべきである。

**コメント [y12]:** ジャーナリストに一番必要なのは、好奇心でしょう。好奇心によって幅広く調べ、知り、そのうえで出した妥当で公正な結論を社会に向けて発信できるように、しっかり学んでください。

## + 吉田

私が今気になっているゼミは 2 つある。

1 つ目は熊坂先生・佐藤先生・山口先生のゼミである。私は 2 年で地域共生コースを選択するつもりだ。障害は、「まちづくり」をしていくにあたって考慮しなければならないことであるから、このゼミで障害について考えることは、必ず今後の活動に役立つ。また、心理学的観点と倫理的観点という違った角度から障害を考えていくことで、私が苦手としている、物事を多面的に理解する能力を向上させたい。

2 つ目は吉田先生のゼミである。何か新しい取り組みをしていく際に、同じような取り組みの事例を見て利点や欠点を知ること、自分たちの取り組みを成功につなげていくことは非常に重要なことだ。しかし、今までこのことを実際に自分たちの活動に活かしたことがない。ゆえに、ポーランドのまちづくりをモデルにして、徳大ファーマーズマーケットをデザインするという取り組みを通して、他の事例と比較検討しながらプロジェクトを進めるということを学びたい。また、「まちづくり」における W 型モデルを実践体験的に学ぶことで、今後の活動の基礎を作っていきたい。

**コメント [y13]:** どのような場面でも必要な能力です。頑張ってください。

## + 三浦

私はDクラスとBクラスを希望する。私は、障害者と健常者が同じルールで楽しめるユニバーサルスポーツを研究し、徳島に普及させたいと考えている。それにより、徳島県全体で運動をする人が今より増え、運動面での糖尿病対策となりなおかつ徳島県でユニバーサルスポーツのイベントをすることで他県の人を呼び込んで地域活性化に繋がる。その実現のためには、大きく2つのことに取り組みたい。1つは根本的に筋力や体の動きなど体について学び県民の健康のサポートを実践的に取り組むこと。そして、もう1つは障害者支援や障害者の心理などについて考え健常者と障害者が共にスポーツを楽しむにはどうすれば良いかを考えることである。以上の2点を深く取り組むことが出来るのは、DクラスまたはBクラスである。欲を言うと、高校生の間スポーツ科学や体についての勉強をしていないのでDクラスを強く希望している。抽選が希望通りになることを心から願っている。

#### +吉田+内藤

私が、後期の課題発見ゼミで選択したいゼミは、現地点では3つ(仮)ある。

・一つ目は、熊坂、佐藤、山口クラスのゼミである。私は「異文化理解」に興味があり、多面的なものの見方を身に付けたいと考えているからだ。また、心理学的観点、倫理的観点から、障害について考えることができるだけでなく、プレゼンテーションの基礎や文献検索法が学べるという点がこのクラスの魅力であると考え。多面的なものの見方、プレゼンテーション能力は私に足りない力であり、身に付けるべき力であるからこのクラスを選択したいと考えている。

・二つ目は、内藤クラスのゼミである。ガイダンスで、「郷土料理や各国料理あるいはハラルフードのように集団のアイデンティティに深く関わっていることがある」という説明をうけたが、食を通じて世界を見るという方法も「異文化理解」のアプローチ方法としては有効であると私は考えた。なぜなら、単に「異文化」について学ぶのではなく「食」という日常的なものを通じて実際に体験することで、「異文化」についての理解がより深まるのではないかと考えたからだ。

・三つ目は、吉田クラスのゼミである。授業の中で私が特に身に付けるべき力は「ブレインストーミング」であるからだ。問題発見、課題解決のためには必要なスキルであり、日常生活でも(レポートの論じるべき点を見つけるときなどに)「ブレインストーミング」は必要であると考えからである。

今回のゼミ選択にあたって、自分の興味で選ばずに、客観的に考えることは大切であることに気づいた。もし、単に自分の興味だけで選んでいたらここまで迷うこともなく簡単に決めているだろうと考えるからだ。冒頭で決まっているのは現地点では三つであると述べたが、自分が身に付けるべき力は何かと考えたら、実際は三つでは絞り切れていない。

**コメント [y14]:**「徳島県は糖尿病死亡率全国一位」という話が出ました。実は私は、これは徳島の多くの医師が死亡診断書を書くときに死因として「糖尿病」と書くという、医師のカルチャーが関係しているのではないかと仮説を持っています。つまり、「糖尿病で死ぬ」といっても、具体的にはたとえば脳梗塞とか心不全とかで死ぬわけです。そのときに、死亡診断書に「脳梗塞」とか「心不全」と書くのではなく、「糖尿病合併症」というような記載にする医師が多いのではないかと。ということです。

**コメント [y15]:**これは大学で学ぶための基礎になる能力です。一年生のうちにしっかり身につけてほしいと思います。

しかし、総て書ききれないため仮で三つに絞った。自分にとってどの授業が必要で、どのような力をつけるべきか考えなければならない。